調査から見えること
― 再就職への3つの課題 ―

本調査から、「女性の再就職」への課題が、3点、浮かびあがってきた。

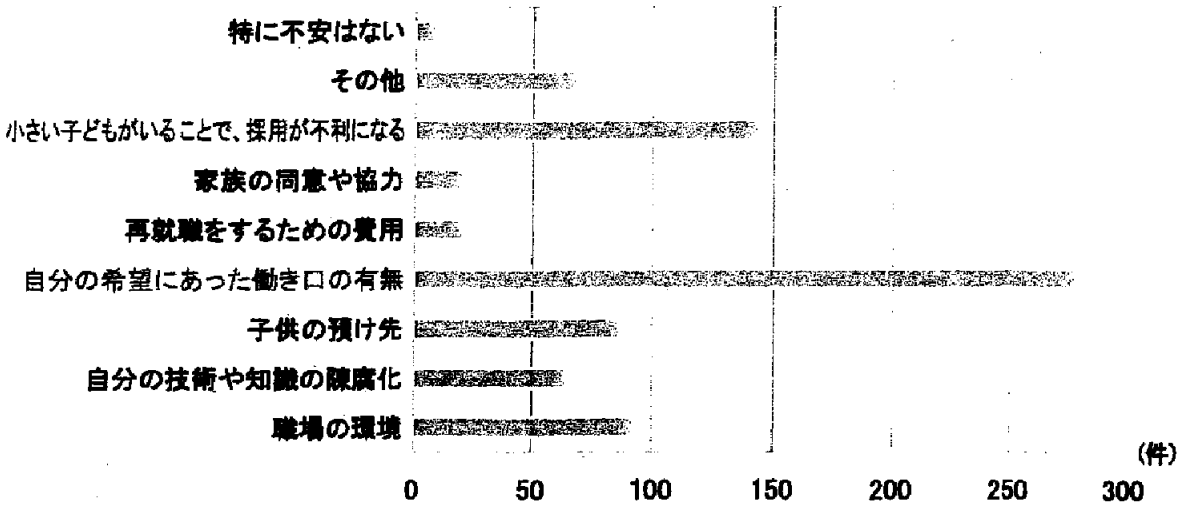
1　女性の再就職における様々な壁の存在

1点めは、**「女性の再就職には、多くの壁が複合的に存在する」**ということである。調査に回答していただいた女性の83.3%が、再就職のトライをしているが、就職に結びつかなかった。その理由として、一番多くあげられたのは、「企業側が求める勤務時間と、自分が勤務できる時間があわなかったから」（46.0%）で、5割近くを占めている。次いで、「年齢制限があったから」（20.4%）、「子どもの預け先が確保できなかったから」（18.8%）と続き、本人の能力や努力だけで解決できない様々な理由が、女性の再就職に当たってのネックになっていることが分かる。

一方、「やってみたい仕事がみつからなかった」（8.5%）など、仕事内容への不満から、再就職に結びつかなかった者は少ない。自由記述欄に書き込まれた意見（以下「自由意見」）の中には、「せめて面接まで受けられれば、自分をアピールできるのに」「子育てが終わった40代は、まだまだ元気だし、時間も融通がきいて、雇用側にもデメリットばかりではないと思う」「主婦たちは生活がかかっており、まじめに働くと思うので、年齢制限など設けずに、どんどん雇用してほしい」という声があり、仕事への意欲や能力が評価される以前に、勤務時間や年齢などの制約から不採用になってしまう女性たちのもどかしさがうかがえる。

さらに、調査項目中「あなたがこれから働こうとするにあたって、一番障害となる（だろう）ことや不安に感じることはどのようなことですか」という設問に対する回答では、全体の6割が「自分の希望（職種・勤務時間など）にあった働き口がみつから

図1　これから働こうとするにあたって、一番障害となる（だろう）ことや不安に感じること（近いものを二つまで）　n＝454



ないのではないか」（61.7%）をあげ、突出して多く、次いで「小さい子どもがいることで、採用してもらえないのではないか」（31.7%）が3割を占めている。（図1）

インタビュー調査に参加した女性たちからは、「もう働きたいと思っても受け入れてくれる場所はないということに、さらに自信をなくしていってしまう」あるいは「どこまでがんばれば再就職できるのか到達点が見えない」というような意見も寄せられた。

このように、調査結果からは、「働ける場がない」「自分はもう労働市場には参加できない」という思いを抱え、再就職への展望をなくしてしまっている女性が数多くいる現実が浮かび上がってくる。

インタビュー調査から

●**ブランクがあるから自信をなくすのではなく、自分が労働市場から受け入れられない**、もう働きたいと思っても受け入れてくれる場所はないんだという現実に、だんだんと自信をなくしてしまう。

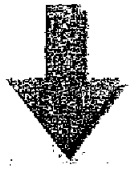
●**自分のスキルや能力が、今のオフィス環境のなかでどの位置にあるのかがわからないのが大きな不安。**どこまでがんばれば再就職できるのか、到達点が見えない。

さらに、「求職活動をしたときに、どこから求人情報を得たか」という設問に対しては、約8割が、「新聞広告や折り込みチラシなど」（77.2%）をあげ、次いで「求人誌」（55.6%）、「求人サイト」（52.9%）と続く。「ハローワーク」については、約半数（46.6%）が利用している。

このように、求人情報を得るにあたって身近な情報入手先に頼っている状況がうかがえるが、求職中の子どもの預け先が得にくいことが反映しているものと推察される。（仕事を探していない理由－第1位「今すぐには希望していないから」（56.6%）、第2位「求職中の子どもの預け先がないから」（31.6%））

また、自由意見の中には、「インターネットで仕事探しをしているが、現状では詐欺サイトも多く、なかなか信用のできるサイトが見つからない」「子どもを連れて行ったら、相談窓口で『子ども連れは遠慮してほしい』と言われ、悲しかった」など、「信頼できる情報の提供」や「女性の状況や心情に寄り添った相談窓口」を求める声が聞かれる。

調査結果からは、女性の再就職へ向けた課題は複雑で、それぞれの課題を一人で乗り越えていくことの困難さが浮き彫りになった。**「働きたい」という女性の当たり前の気持ちを尊重し、再就職の前に立ちふさがる壁を乗り越えていく総合的な支援**が求められている。



個別のカウンセリングやきめ細かな情報提供で、
再就職活動へのエネルギーの回復を支援

2　「ライフステージ」によって「希望する働き方」が変化する

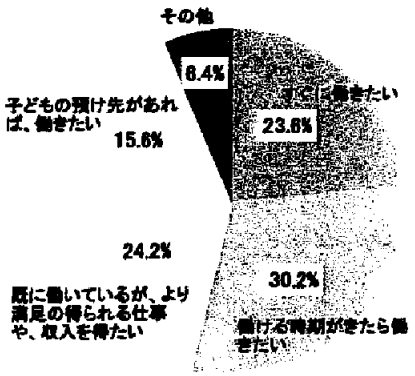
2点目は、子どもの成長等に伴う「**ライフステージの変化によって、『希望する働き方』が変化する**」ことである。

自由意見では、「食育の大切さ」や「子どもを危険から守らなければならない今の社会状況への不安」、「学校や園での行事への参加」など、「**親として子どもへの責任をきちんと果たしたいという思い**」と、一方「新しい技術や知識を身につけて働きたい」「資格を活かして再就職したい」など、「**仕事を通じた生きがいや、社会とのつながりを持ちたいという思い**」の中で揺れ動き、それぞれのライフステージにおいて、仕事と家庭のバランスをとっていきたいと願う女性たちの切実な思いがうかがえる。

調査結果からも、「すぐに働きたい人」が約24%、「働ける時期が来たら働きたい」が約30%、「子どもの預け先があれば働きたい」が約16%となっている。（図2）

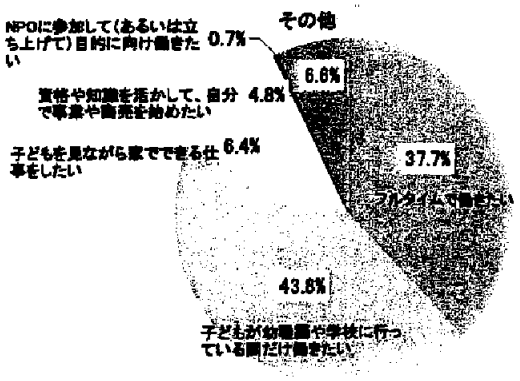
また、「希望する働き方」として、「フルタイムで働きたい」が37.7%に対し、「子どもが幼稚園や学校に行っている間だけ働きたい」「子どもを見ながら家でできる仕事がしたい」が合わせて50.2%と、「子どもの年齢に応じた可能な働き方」を模索している状況も明らかになった。（図3）

図2　現在のあなたの状況は



n＝454

図3　希望する働き方



n＝454

このような「子どもが小さいうちは、家庭と折り合いを付けて働きたい」という、女性たちの思いは、ともすれば、仕事への責任感や働く意欲が乏しいのではないかとみられがちであるが、インタビュー調査でも多く語られたように、「夫の残業が多く、家庭のことは自分が担わなければいけないから」という厳しい現実を前に、余儀なくされた選択とみる必要がある。

こうした女性たちが意欲と能力を発揮していくためには、短時間就労や在宅勤務を含む柔軟な働き方を実現、普及させることが、重要な課題といえる。

さらに、子育てが一段落した後、フルタイムで働くことが可能となった女性たちの前に立ちふさがるのが「年齢制限の壁」である。年齢制限に関しては、自由意見でも、「撤廃して欲しい」「どうしたら乗り越えられるのか」などの切実な意見が寄せられている。

自由意見から（抄）

●在宅でときどき仕事をしているが、ゆくゆくは就職（フルタイム）して働きたいと思っている。新聞で読んだが、短時間正社員の案はなかなかよいと思う。

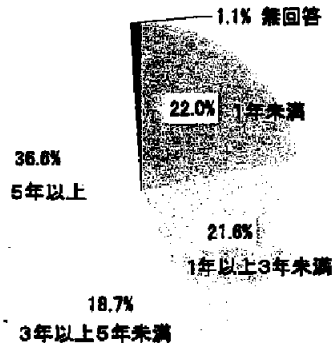
●女性の再就職にあたって、求人等を見ると年齢制限と子ども（特に小さい子ども）の有無が、一番のネックになると思う。年齢は35歳未満とか高くても40歳までが多く、それを超えると極端に求人が少なくなるし、かといって年齢は大丈夫でも、小さい子どもがいるとやはり病気とかで突然休まれるのを嫌ってか、面接で落ちることも多い。

●子どもが一人っ子なので、9時～2時ごろまでの仕事をさがしている。でも一番の不安は、子どもが病気をしたとき。突然休めば会社に迷惑をかけてしまうし・・・仕事をするからには責任を持ちたいし、今はやっぱり仕事は無理だと思ってしまう。家でできる仕事がしたい。

●本当ならフルタイムで働きたいが、学校の行事、子どもの病気などを考えるとパートにせざるを得ない。

さらに、離職期間については、5年以上の人が37%を占めるなど最も多く、この離職期間の長短によるきめ細かな支援も重要である。（図4）

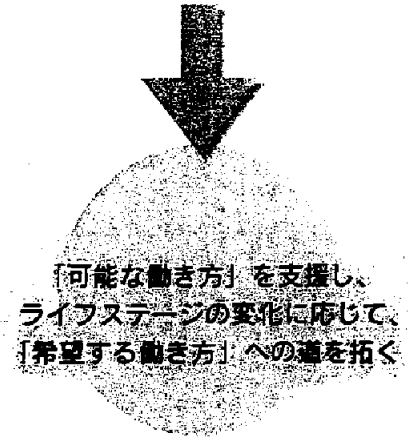
図4　離職期間



n＝454

以上の調査結果からは、女性たちの、ライフステージに応じた「望んでいる働き方」あるいは「可能な働き方」が実現するよう、節目節目で支援し、仕事か家庭かという "all or nothing" の選択ではなく、「人生における継続的な仕事との関わり方」や「仕事を通じた人生展望を描く」ことへの道を拓いていくことの重要性が明らかになった。

併せて、長時間残業など、男性の働き方の見直しを含む「ワーク・ライフバランス」の追求により、男女が共に子育てや家庭責任が担える雇用環境づくりを進めることも重要なポイントである。

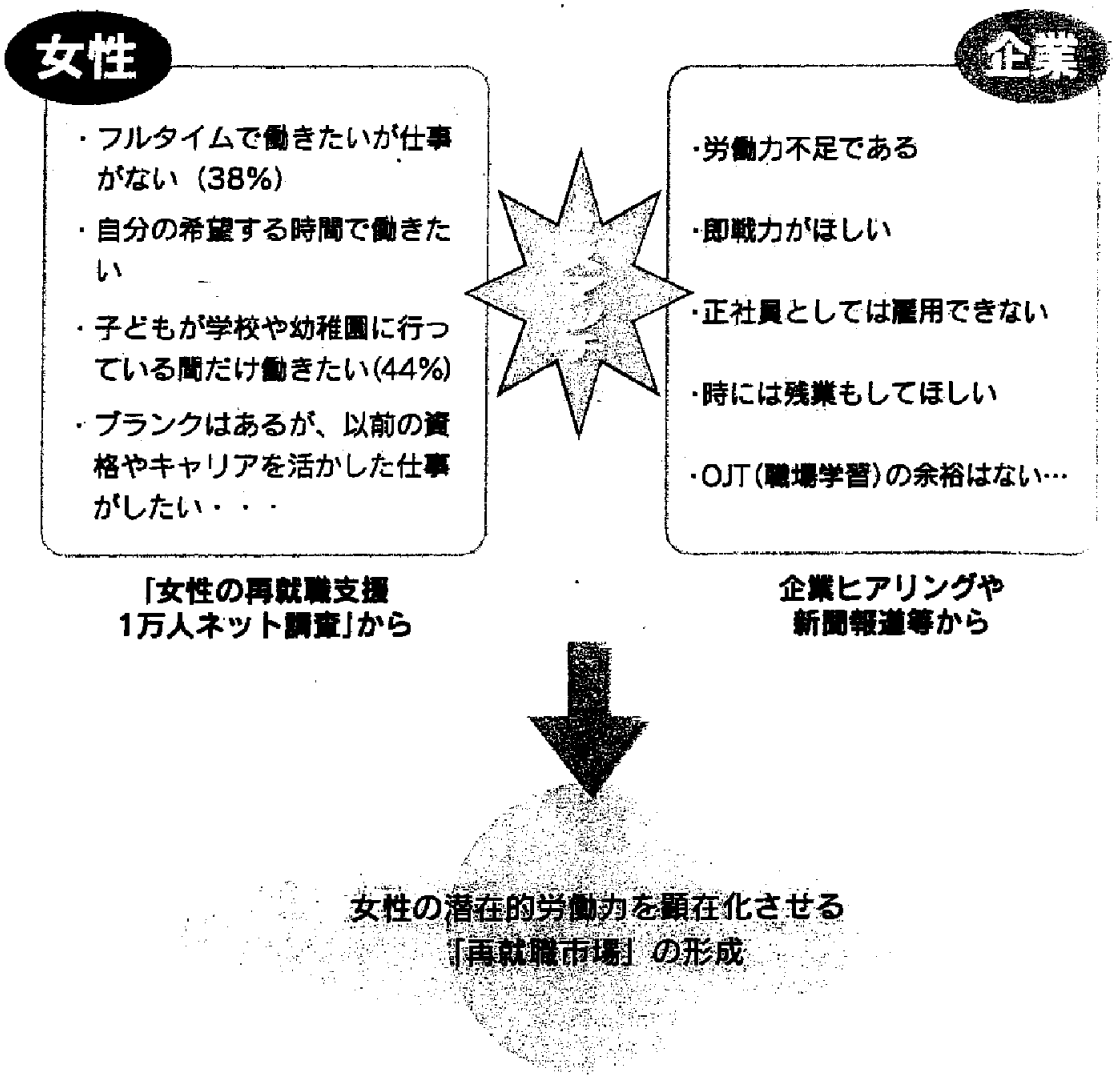


3　「求職ニーズ」と「求人ニーズ」とのミスマッチ

3点めは、**「女性の求職ニーズと企業の求人ニーズとのミスマッチ」**である。

女性の様々な状況を受け入れ、雇用する側で、短時間勤務を含む多様な働き方を提供することが可能であれば、「埋もれた資源」である、女性の貴重な労働力を活用することが、十分可能となってくる。

従来の雇用のスタイルを超え、「ワーク・ライフバランス」の考え方のもとで、企業の実情に応じ、労働時間、就労場所、休暇などについて多様な選択肢を提供、整備することにより、女性の潜在労働力を活用することが可能となる。労働力不足が現実となっている今、「日本の含み資産」ともいわれるこうした女性たちの膨大な労働力を掘り起こしていくことは、喫緊の課題といえる。女性たちが展望をもって参入してくる**「再就職市場の形成」を、県内企業とともに模索していくことが重要**である。



4　再就職支援に求められるもの

以上３点の課題を踏まえ、「働きたい」と希望しながら、再就職の多くの壁の前で立ちすくみ、あきらめている女性たちを後押しし、再チャレンジを支援する総合的機能を持つ「再就職支援拠点」を整備することが必要である。

拠点には、女性のニーズにきめ細かく対応した個別の支援をワンストップで行っていくこと、再就職支援に係る機関・団体のネットワークの中枢となり、相互の連携・協力体制を構築し、支援機能を県内全域に波及させること、が求められる。

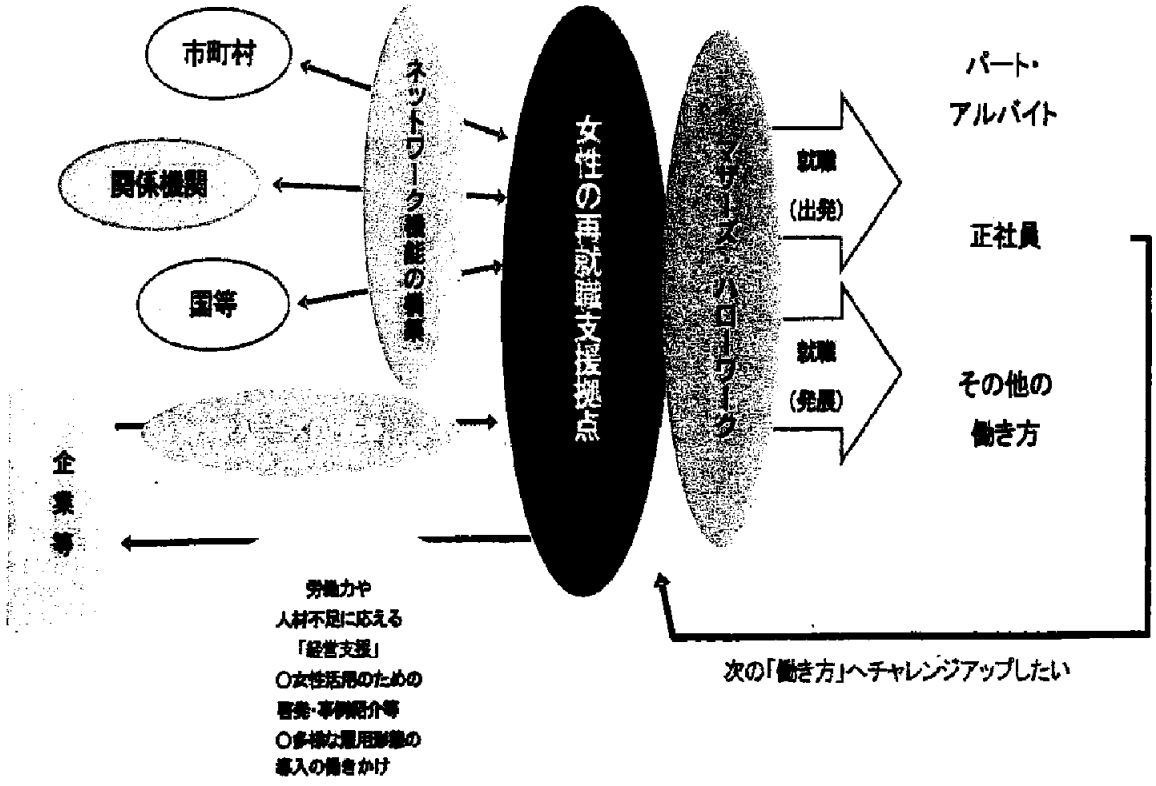
具体的には、次のような機能があげられる。

①具体的な求職活動に踏み出す前段階、再就職を望みながら厚い壁に立ちすくんでいる女性たちや、現状から次へチャレンジしようとする女性たちの、エンパワーメントのためのカウンセリングや情報提供

②「マザーズ・ハローワーク」との一体的展開による就職までの一貫した支援

③職業キャリア形成や資格・技能習得のセミナー開催と情報提供

④起業や在宅ワーク、NPOでの就労など、多様な働き方についての情報提供

⑤男女共同参画部局や市町村（雇用担当課や女性センター）、ＤＶセンター、21世紀職業財団、支援NPOなどとのネットワークの構築

⑥企業の意識改革、多様な雇用形態導入の働きかけ